

## 意見交換の主な意見

### ●委員

- ・前回の基本構想からより具体的で大変素晴らしいできている。
- ・スケジュールを考えると、直近の開催地では、基本計画と実施計画を同時にするような事例も多々ある。今後、基本計画からより具体的な実施計画・実施設計に移っていくと思うが、スケジュール感が気になる。
- ・横浜で開催される国際園芸博覧会、その翌年に佐賀県でも同じようなテーマに沿って考えていくことは大変重要。去年12月末に国で緑の基本方針の改定が行われている。よりグリーンインフラを推し進めていこうということで、人と自然が共生して環境への負荷が小さく、Well-beingが実感できる緑豊かな都市ということで、市街地については緑被率3割以上を目標として整備を進めていくことが打ち出されている。グリーンコミュニティは、街中に花と緑をたくさん整備するということがより具体的な案であり、作業としてはそこに尽きる。今後、実施的なものはこの計画に沿って進めていかれるものと期待している。
- ・佐賀城公園については未来というテーマになっている。佐賀城跡の歴史的建造物等がありながら、過去の歴史から未来へつなぐという意味と理解している。涌井先生との話で、佐賀城公園はカテドラル（聖堂）だから極端に花で飾りたてない方がいいとも言っていた。佐賀城の周りは過去から未来へのつながりを表せるような内容になるのかなと理解している。
- ・佐賀平野はエコトーンがすごく長い。他の地域にはないエコトーンの長さがある。緩やかに山から海まで変化していく、平地が広い。そういった他にはない特色を涌井先生はクリークや嘉瀬川との共生等を言わわれていると思うが、そういったエコトーンが長いところを、より前面に出した整備が必要になってくる。
- ・小形研三さんという佐賀県出身の造園家がいらっしゃる。唐津市七山の生まれで中学校まで七山おり、大学で上京され、それまでの松や楓等の伝統的な造園技法ではなく、自然をそのまま表せるような雑木の庭の先駆者である。こういった方の功績や雑木の庭の環境整備や紹介をお願いしたい。

### ●座長

- ・専門的な知見からお話を頂いた。涌井先生の話も含めて、グリーンインフラやグリーンコミュニティ、佐賀城公園の緑化フェアでのあり方という話もご意見頂いた。緑化フェアは花のイメージが強いが、緑や庭等、花以外の自然や環境のようなものも重要なのではないかと指摘いただいた。
- ・小形研三さんは雑木の庭だけでなく、全国的に沢山の人材を育てられ庭の設計を公共の中に位置づけようと取り組まれた方でもある。緑化フェアの基本構想でもレガシーとして人材をどのように作っていくかという話もあったので、小形さんの話はすごく良いと思う。人を育てることも、今回の緑化フェアではすごく重要。

### ●委員

- ・全体としてこの中間案は良く整理されている。
- ・冒頭の挨拶にあった、本物の価値に気付くということについて、地元に住む人間が価値を再発見するというのは非常に大事。また、その良さをいい形で佐賀県以外の方々とつないでいくことが非常に大事。次にどうレガシーを残していくのか。観光の観点からすれば、非日常の観光もあるが、日常で気

づかなかつた良さもある。まずは住む人が価値を再発見するようなものを上手に発信していくことが大事。また、身近に感じるということが大事。

- ・「過去」「現在」「未来」とポイントが出されているが、1つのキーワードなど、印象付けるものを計画の中に盛り込んでいただきたい。パッと目を引くものがあると他のものに活かせる。
- ・イメージキャラクターの森川海人くんについて、緑化フェアでは、花を入れてもらいたい。
- ・佐賀の安らぎや良さを伝えられる緑化フェアになればいいなと思う。時間空間など目に見えないものと花と緑という目に見えるものをどのように掛け合わせて、緑化フェアを形作っていくのかということを考えていただきたい。
- ・中間案で移動の問題について触れている。食や販売なども入っているが、観光的な要素も入れていただけると、より多くの方が関わっていける。

## ●座長

- ・佐賀の魅力を、もう1回再発見する機会を設けるのが良い。
- ・日常と非日常の話について、県内の方にとっても非日常だと思うが、同時にこの期間は日常的に花と触れ合えるような期間であって欲しい。
- ・森川海人くんについて、すごくかっこいいキャラクターであるが、SAGA JAMの時は森の中にいるイメージで、緑化フェアの時は花を持ってもらうなど、少し変わってもいい。キャラクターの存在は大きい。どの緑化フェアでも、その時のキャラクターが後の緑化行政に深く関わってくる。息の長いキャラクターにすることも重要。この後の展開もしっかりとプロモートしてほしい。
- ・ウォーカブルな視点、移動の視点はすごく大事。徒歩、公共交通機関などの移動手段がすごく重要。JRやバス関係と連携を取って準備を進めてほしい。また、そういったところにPRしていただけると良い。

## ●委員

- ・開催期日が3月下旬から5月下旬のため、冬の花から春の花へ変わることになる。冬の期間中に春の花を植えても、かなり厳しい環境があり、また、長丁場の中をどう管理していくのかが課題。
- ・佐賀県は今、花の生産者、苗の生産者がかなり減少しているため、佐賀県の花だけで揃えてくれという要望があつても不可能だと思う。他県の業者に応援を頼むことを認めていただけなのか。

## ●事務局

- ・花の調達について、佐賀県だけで賄うことが難しいという話は伺っている。佐賀で開催する緑化フェアのため、佐賀の生産者の方のお花を第一に考えている。とはいえ、生産の実情から佐賀だけでは難しいことも伺っており、県外からの花の調達なども含め、花苗の調達を検討していく。

## ●座長

- ・花の調達に関しては、基本計画の後の実施計画を立てていく時に非常に重要。
- ・開催期間が3月から5月で、冬の花から春の花に入れ替わる時期であり、植え替えをするかどうかもすごく重要なことだと思う。季節が変わっていくところを見てもらえることはすごくいいことであり、花の業界としても、たくさんの花が使われることはすごくいいこと。

- ・ただこの時期は、他都市でも花のイベントが多い。花の魅力で街づくりをやろうとか、花の魅力でイベントを成功させようという事例がすごく増えている。熊本や福岡も花のイベントと同じ時期に考えているため、花の消費がかなりこの時期に集中する。なるべく早く検討し調整を進めてほしい。

## ●委員

- ・コンテンツに関してはしっかりと作り込まれている。
- ・緑化フェアにより、花と緑で佐賀県が盛り上がっていく。難しいところは、いかに県内で浸透させていくか、県外に知ってもらうのかということ。緑化フェアをきっかけとして、県民に well-being で緑や花を感じてもらう、生活の豊かさを感じてもらう、マーケティングでいくと、行動変容を促すきっかけが緑化フェアになるのではないか。
- ・県外の方にも佐賀に来てもらうきっかけという意味では、関係人口、交流人口を増やしていく必要がある。田中委員の言われた、花苗を県内だけで貰うのは難しいということが、否定ではなく、逆にそれが県外の方とつながっていく、交流できていく、産業が大きくなっていく、一つのきっかけになれば、緑化フェアの広がりが見えてくる。関係人口、交流人口をどう創出するかも緑化フェアの大きな課題。
- ・いいコンテンツをどう知ってもらうのか。観光客が多くなり、海外のお客様が増えている現状の中で、スムーズに迎えられる準備ができるのか、知つてもらい来てもらえるのかという周知活動も重要。英語表記、韓国表記、中国表記など表記がしっかりとあることも重要。レガシーとして継続していくならば、フェアをきっかけとして花と緑が増える、海外のお客様が来た時に分かりやすい案内ができるような、まちづくりの1つの視点を入れると、今後のインバウンドの需要にも耐えていけるような街になっていく。
- ・コンテンツそのものもすごく重要だが、知つてもらう機会をどう増やしていくのか。SNS もたくさんあり、どの SNS でターゲット層に伝え、どういうコンテンツを SNS に載せるのか、という議論が必要。

## ●座長

- ・単純に来ていただくだけではなく、どういうふうに来ていただくかがすごく大事。
- ・海外、県外、県内、住民、いろんなターゲットによってコンテンツや届け方も変わる。観光で来てもらった方の議論をどうしていくのかという。とにかく SNS を作ればいいみたいなところがあり、SNS はやっているがフォロワーが少ないことがある。それだと伝わらない。緑化フェアだけでなく、公園やそれ以外のいろんなイベントにもつながるので、どうやって伝えていくかをしっかりと検討してほしい。
- ・地元の人に参加してもらうことはすごく大事。県民の皆さんのが花や緑に興味を持ち、それが身近になり生活の質が上がった、佐賀県民はそういうところに意識高いよね、と言われるようになるといい。計画の中にどう盛り込むか検討いただきたい。
- ・今回を契機にサインや表記は、これから英語と韓国語と中国語が標準になると思うため、検討いただけるとよい。

## ●委員

- ・基本計画の中間案については、非常に素晴らしい、行ってみたいと思うような中身がたくさんあって非常に具体的だと思った。

- ・佐賀城公園には2日に一回ぐらい行っており、かなりの人とすれ違う。まずはこの人たちが緑化フェアを楽しみにしてくれるようになるといい。そのためには、やはり県民の方への周知、告知をやっていきたいと思った。
- ・改めて佐賀の自然の良さや、歴史と自然との共存という視点がすごく大切であることに気づかされた。これをいかに県民の方に伝えていくのかはすごく難しい問題。改めて、成富兵庫茂安を振り返ったり、小形研三さんことを振り返ったりするためには、どうやったらできるのだろうかと思った。
- ・「自発」というキーワードあった。自発の地域づくり、レガシーづくり、そういった「自発」をどうやって促していくのかは少し難しいところかと思った。花のボランティアを増やしていったり、地域で花作りをやってもらったり、どうすれば今までやってない人が踏み込むことができるのかを考えていかなければならない。

## ●座長

- ・県民にいかに伝えていくかはすごく大事。まずは県民が盛り上がり全然違う。

## ●委員

- ・まずは開催することを広く皆が知っていくといい。花と緑なので、すぐ決めてすぐできるわけではなく、長いスパンで考えると、長い周知が大切。
- ・周遊という視点が欲しい。パートナーアークが複数すでに手が挙がっていることは非常に良い知らせが、例えば佐賀城公園まで行くのも、駅だけではなく、商店街の方を通ってみるとか、どんどん森を通ってみるとか、そういう視点があるといい。特に佐賀城は駅から徒歩であれば必ずしも中央通りだけではない。佐賀に花と緑のフェアで遊びに来て、森林公園に来て、それ以外のスポットも回って1日楽しんで帰る、あわよくば泊まって、別の会場も回ってもらうみたいなことが計画の中にあるとすごくいい。

## ●座長

- ・パークツーリズムやガーデンツーリズムみたいなものが、佐賀でできればいい。シンガポールでは、“シティ・イン・ザ・ガーデン”ガーデンの中に都市があると言っている。佐賀もそうだと思う。緑や自然の中に街があることがはっきり分かる都市なのではないか。そういうこともすごく大事で、できればその後も継続できるような、花と緑の報告をする媒体が、SNSだけではなくて、紙媒体ができるといい。いろいろなところに配れるものがあると良い。高校生や小学生がちょっと記事を書いてくれたりするといい。

## ●委員

- ・福岡の正興電機さんの庭で市民と企業が一体になって作っている街角があり、イベントに行ってきた。コミュニティができていて、企業さんを中心にみんなで草取りから新しい花植えまで、子供からシニアの方まで楽しそうにされており、すごく素敵なお祭りだった。こういった企業を核とした取組が県内あちこちで開催され、行政主導でなくともそういう形があるのだと知ることができ、とても良かった。フェアが、そういったことのきっかけ作りになるといい。
- ・福岡市では一人一花運動を結構前から頑張っており、個人で専門家と言えるような方がたくさんいて、学びたい方は、ここに行けばいろんなことが学べるみたいなもののがかなりある。佐賀の現状だと、ど

ここにどのような専門家がいるのかが見えにくい。造園、生物多様性、環境リサイクル、いろいろな専門家がいる。グリーンインフラ大賞を取った鹿島の棚田や、伊万里の駒鳴の里山が、佐賀県第1号の体験の機会の環境教育とされていることが全然知られてない。今あるもの、人、場が、フェアを機に認知度が上がることがすごく大事。

- ・生物多様性の観点から考えると、昔ながらの佐賀県にある植物がとても大事。「この花を食べに来るのはこのチョウで、だからこの植物を植えないとこのチョウが来なくなるんだよ」とかを学ぶ機会があまりない。専門家の方が子供たちに体験を通して学んでもらって、生き物大使みたいな子達が地域において、ガーデンに行けばその子たちが教えてくれるとみんな一生懸命聞いて、覚えようとすると思う。そういう小さな専門家みたいな子たちを今から育てていくと、フェアがその子たちの活躍の場になっていくし、他の子たちの刺激にもなる。
- ・デザインを専攻している大学生にどのような緑の環境があつたら嬉しいか聞くと、ウエディングパーティーやバースデーパーティーが開けるようなおしゃれなガーデンがあり、インスタ映えもするような空間と言っていた。若者たちが集まり、イベントをするような緑化空間を若者たちが作っていけば面白い。自分たちが作るアートの発表の場をガーデンの中に作るといった視点が入るといい。

## ●座長

- ・「東光のまちにわ」を博多でやっている。これは企業がお金を出し、企業と地元の方が参加し、行政の土地にガーデンを作つて、そこでいろいろなことをやっている。事業所やお店レベルの小さいサテライトがあつてもいい。参加表明の看板やシールなど、緑化フェアに参加していると思ってもらえるような仕組みづくりがあるといい。それがその後のレガシーになってくる。
- ・大きな物語と小さな物語は両方あつた方がいい。大きな物語は緑化フェアや、さがデザインなどの県の施策。これに向けてみんな進んで行ければいいが、今は多様化している社会のため、みんなのやりたいことが違う。でも小さな物語が大きな物語とつながつた時にいろいろなものが見えてくる。各個人や企業、店舗でも、そういう小さな物語と大きな物語をどこでどうつなげられるかを行政に是非やっていただきたい。そういうものがあると、大きな物語と小さな物語がぐるぐる回つて、もっと大きな物語が広がっていく。そういう意味では企業や事業所を巻き込んでいくことはすごくいい。
- ・若者がカルチャーを作つてるのは間違いない。若者たちがやつたこと、例えばアートや他のことでもいいので、緑化フェアに入れていく場所があつてもいい。
- ・特に公園や緑化をしている場所と、その専門家をどうやってつなぐか、そういう場を若い人たちがもっと活用してくれるといい。小学校、中学校の先生方が活用してもらうと、緑化フェアが終わった後も息が長くなる。
- ・在来種や外来種の問題は、非常に頭を悩ませているところ。西日本短期大学では、公共用緑化樹から覚えるが、ドイツの大学は1番最初の授業は地元の植物から教える。ここではこんな植物があり、役割があり、歴史がある、こんな人との関わりがあることを教える。どうしても仕事の側面から考えがちだが、地元という側面から植物を考えていくことが大事。両方が必要。
- ・緑化フェアだけではなく、子供たちが大使になるということは、まちづくりの大きなヒントになる。とが出てくると面白い。まずは委員の皆さんから発信できればいい。